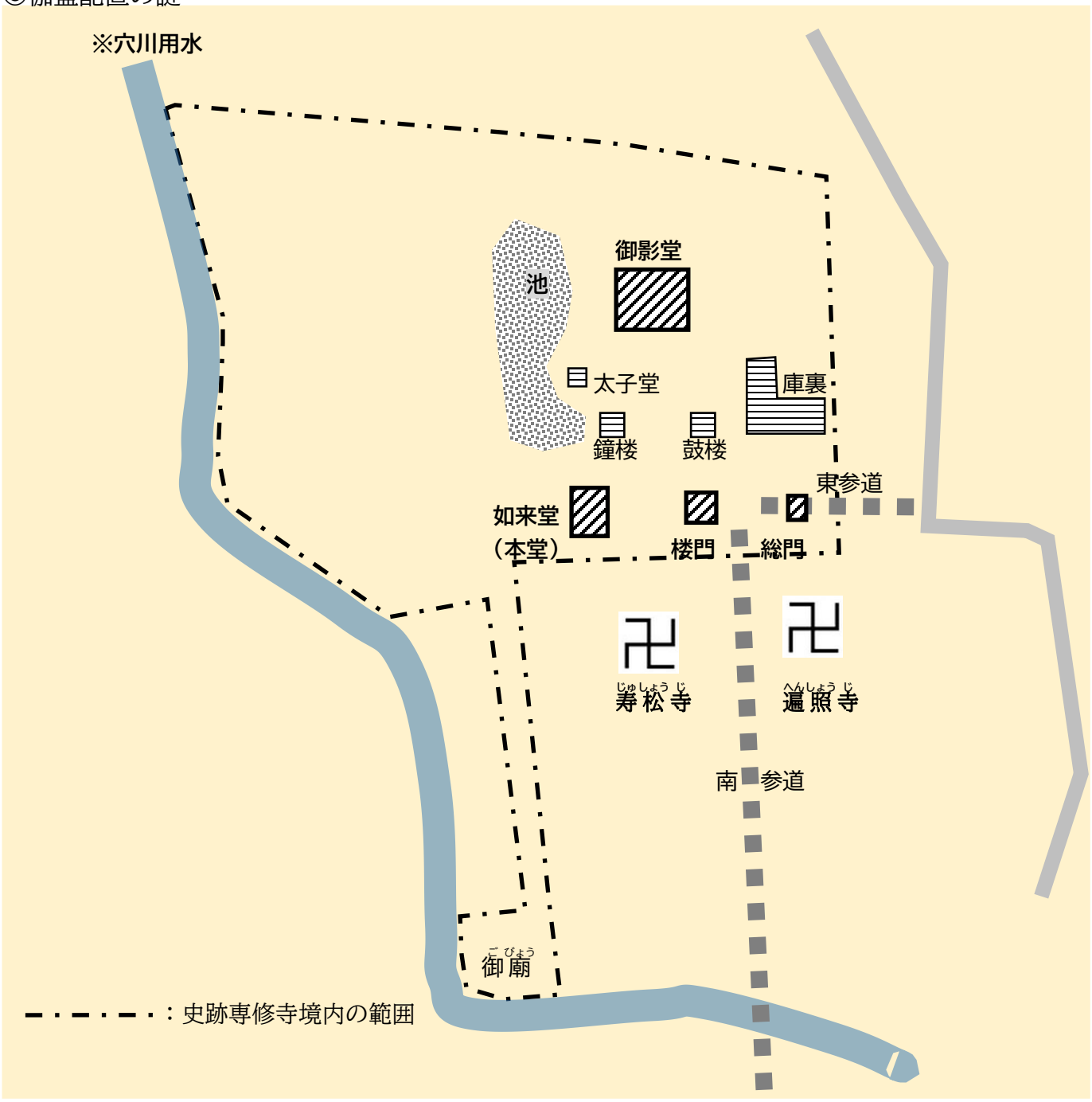
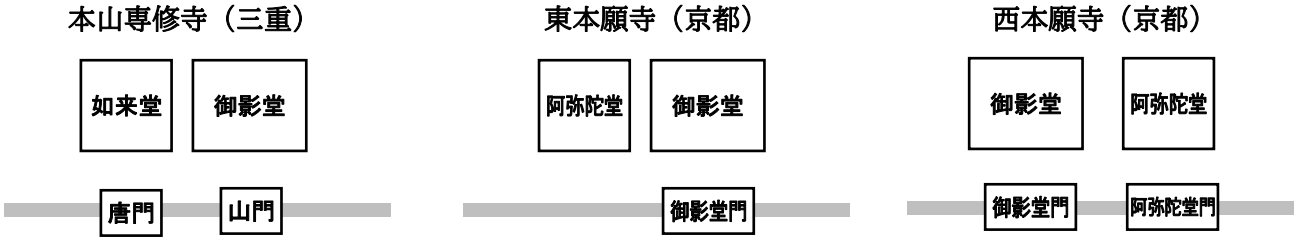
1　親鸞聖人：専修寺の謎

◎伽藍配置の謎





謎が謎を呼ぶ　⇒　〇創建の謎　〇大内氏の謎　〇大内荘の謎　〇真岡の由来

◎楼門の解体修理でわかった楼門の変遷と専修寺の歴史

	楼門の変遷	専修寺の歴史
令和	2021～2023　楼門全解体修理：茅葺きに戻す **修理６回目**	
平成		1999　如来堂半解体修理 1989　御影堂半解体修理
昭和	1980　楼門瓦葺き替え　**修理５回目** 1934　楼門瓦葺き替え：丸釘使用　**修理４回目**	
大正	 **楼門の補修瓦**	
明治	※1868～1879：菊花文使用禁止 ？　楼門修理：角(切頭)釘使用 **修理３回目**	
江戸	1823　「高田山」の扁額掲げる …瓦葺きに変更か　**修理２回目** ？　茅葺き直しと仏間整備？　**修理１回目** 1691　楼門建立　…建立時は朱塗りで茅葺きでした(元禄 4)	 **楼門の最初の瓦** **菊花文** 1744　如来堂建立 1743　御影堂建立 ？　総門建立
安土桃山		1584　豊臣秀吉による禁制
室町		1526　兵火により専修寺炎上 三重の一身田に本山移転
南北朝		寺号が専修寺になる
鎌倉		1226　高田に専修寺建立
平安		1173　親鸞誕生

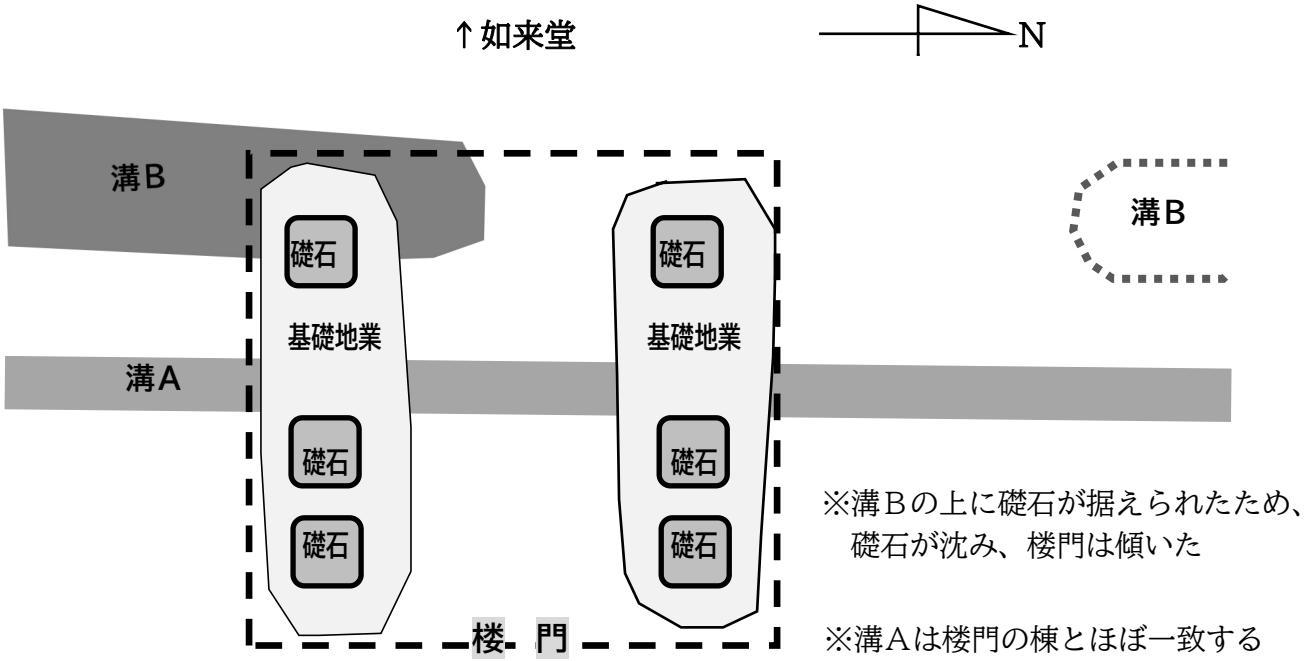
この時、一光三尊仏はどこに？



・二階に上がる階段があり、二階を仏間として利用していた時期がありました
・また、右のような六本柱の均等でない並びが謎でした

※発掘調査により、楼門よりも古い遺構（溝Ａと溝Ｂ）が見つかりました

◎重要文化財 楼門 下の発掘調査の成果

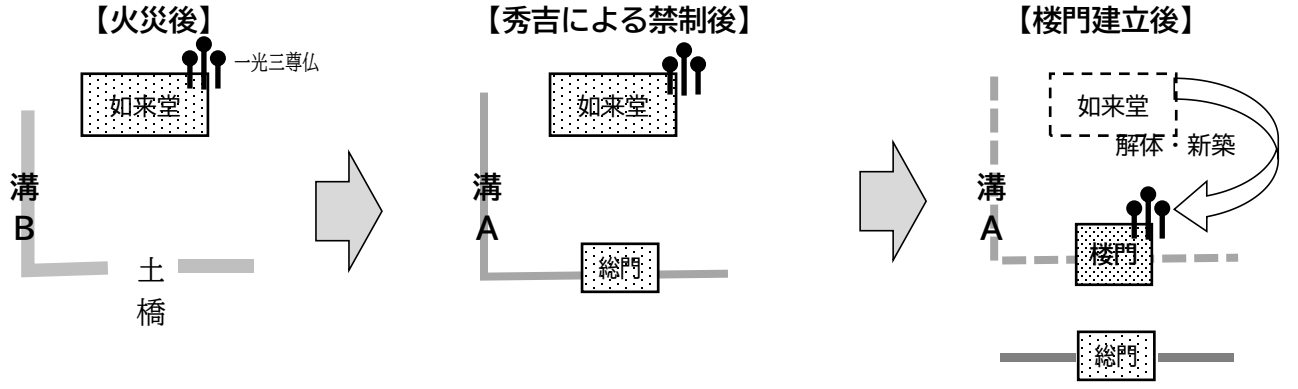


※溝Ｂの上に礎石が据えられたため、
礎石が沈み、楼門は傾いた

※溝Ａは楼門の棟とほぼ一致する

※溝ＡとＢの続きが北で見つかった
→溝Ｂは途切れる　…土橋(入口)部分
※楼門は、過去の専修寺の入口部分
に建っている

1526 年の兵火による火災後の伽藍の変遷



・溝Ｂにより伽藍を区画
・入口は土橋、門は不明

・溝Ａ（と塀）により伽藍を区画
・（入口は板橋）
・（門は総門）

・寺域拡張、総門移転
・総門の所に楼門建設
・如来堂解体修理着手
・三尊仏は楼門に安置

() 内は推測

2　芳賀高名の野望



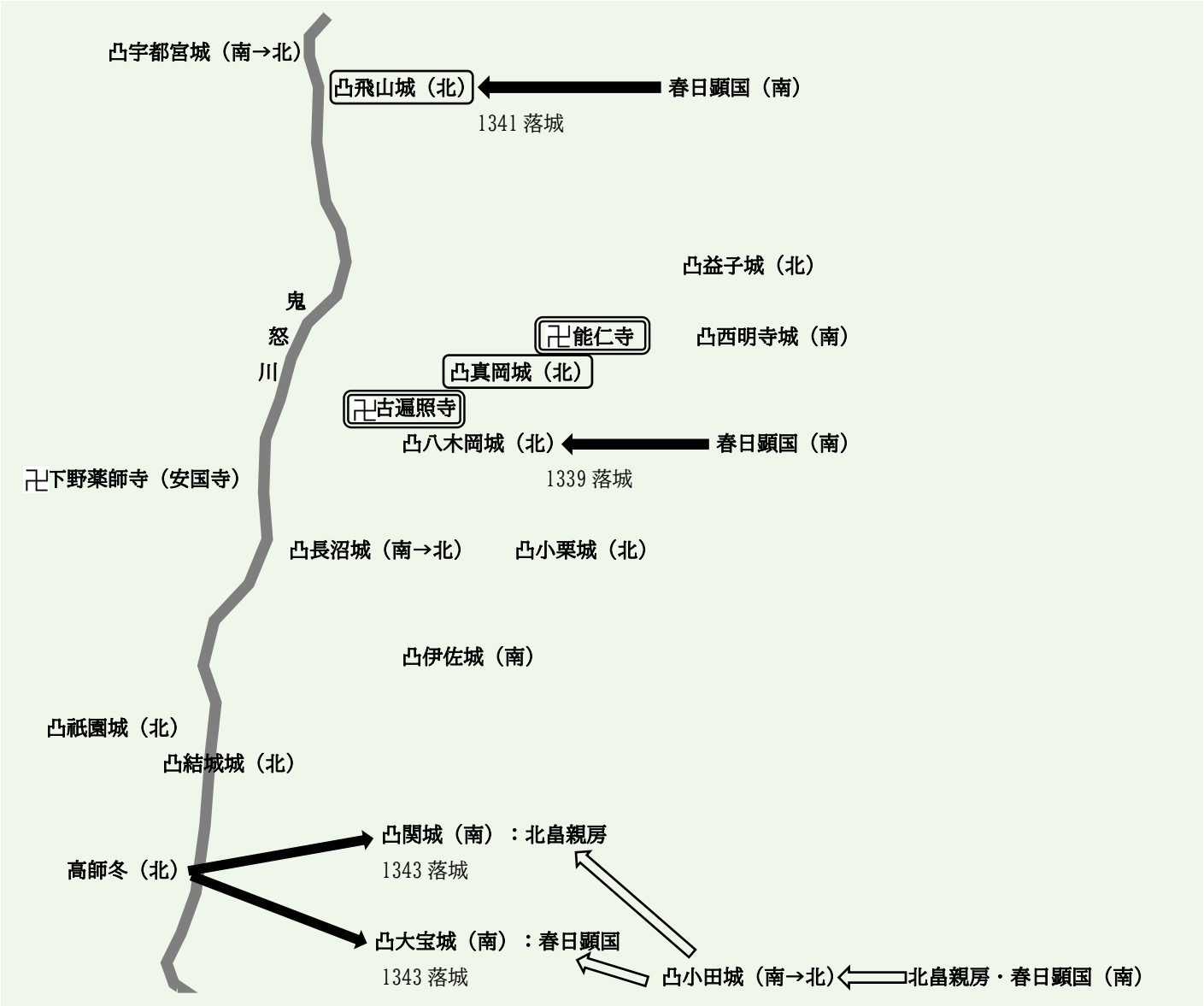
芳賀高名像（市民会館前）



県指定：芳賀高名像（海潮寺蔵）

芳賀高名（1291～1372）
- 法名：禅可
- 芳賀氏第 14 代（父：高久、
  子：高貞、高家）
- 岡本氏の祖
- 来歴
  - 元弘の乱：　宇都宮公綱と共に幕府方
  - 南北朝時代：宇都宮氏綱擁立し北朝方
    （宇都宮公綱は初め南朝方）
  - 観応の擾乱：宇都宮氏綱と共に尊氏方
    薩埵峠の戦いで勲功
    →越後・上野守護代に（氏綱が守護）

◎南北朝期の真岡周辺 …関東における南北朝の争いの最前線だった



◎安国寺と利生塔の設置・建設

【誰が】臨済宗の夢窓疎石の勧めにより、足利尊氏・直義兄弟が（直義が中心）

【いつ】建武 5 年(1338)頃～貞和年間(～1350)にかけて

※安国寺と利生塔の名称は、康永 4 年(1345)から（光厳上皇の院宣により決まる）

※それ以前は、「六十六ケ寺」「諸国寺塔」と呼称

【どこに】聖武天皇の国分寺制度をモデルとし、全国 66 国 2 島に

【目的】　・元弘の乱以来の戦没者を弔い、戦災の悪因縁（祟り）を断つ

・南北朝動乱の論功行賞とともに、北朝の勢力範囲を拡張・確保

・領内の人心を慰撫

・各国守護と密接な寺を指定し、守護統制に利用

【実態】　安国寺：既存の五山派の有力禅院に寺号と所領を与えて設定したのが多い

利生塔：三重 or 五重塔で、旧仏教（真言・天台宗）の大寺院に設定 or 新造

下野国の場合　…安国寺：下野薬師寺を充てる（医王山安国寺：真言宗智山派）
…利生塔：不明（下野薬師寺に置かれたとする考えもある）

◎杉山正雄・小筆一成・大澤伸啓 2002「真岡市中村遍照寺塔跡出土の中世瓦について」『唐澤考古 21』
◎佐藤行哉 1936「遍照寺」『芳賀郡南部郷土誌』　…遍照寺五重塔棟札の記録

1333 元弘 3	鎌倉幕府滅亡、建武の新政～	**如意山 遍照寺**	**大雄山 能仁寺**
1334 元弘 4			
1335 建武 2	建武の新政瓦解		
1336 建武 3	室町幕府創設、南北朝～		
1337 建武 4			
1338 建武 5	北畠顕家・新田義貞戦死	**暦応年間**、茅堤で創建 真言宗智山派 開山：三宝院賢俊（**足利尊氏**の護持僧）　開基：足利基氏 **暦応 4 年**五重塔棟札(写)が伝わっていた	伝承：**足利尊氏**、夢のお告げで境沢観音堂を建設
1339 暦応 2	後醍醐天皇逝去		
1340 暦応 3			観音堂を守るために
1341 暦応 4	飛山城落城		
1342 暦応 5			
1343 康永 2	関城・大宝城落城		**康永 2 年**創建 **臨済宗**妙心寺派 開山：不識妙宥 開基：**足利尊氏**
1344 康永 3			
1345 康永 4	光厳上皇の院宣		
1346 貞和 2		**大日如来座像造像**	
1347 貞和 3			
1348 貞和 4			
1349 貞和 5		※永禄年間に焼失→天文年間に現在地に移転・再建	
1350 貞和 6			

３　報徳教に気をつけろ：「リンカーンに匹敵する偉大な指導者」

◎実績

	文政 5 年（1822 年）	天保 6 年（1835 年）	増減
年貢収納高　米	1326 俵 1 斗 2 升 3 合	1987 俵 2 斗 5 升 6 合	約 661 俵　増
永	137 両 3 分、276 文 6 分 2 厘	167 両 1 分 3 朱、5 文 5 分	約 30 両　増
	文政 4 年（1821 年）	天保 8 年（1837 年）	増減
人口　戸数	156 軒	173 軒	17 軒　増
人数	722 人	857 人	135 人　増
	文政 4～5 年頃	天保 6～8 年頃	
概算：1 人当生産高	1326 俵÷722 人＝約 1.8 俵	1987 俵÷857 人＝約 2.3 俵	**1.27 倍・約 3 割　増**

◎没後・・・

安政 3 年（1856）10 月 20 日	二宮尊徳没(70 歳)
安政 4 年（1857）	子：弥太郎（尊行）、日光仕法継続
明治 8 年（1875）	「遠江国報徳社」設立
明治 14 年（1881）	富田高慶、『報徳記』著述
明治 18 年（1885）	「報徳訓の碑」建立　…没後 30 年記念
明治 24 年（1891）	幸田露伴、『二宮尊徳翁』著述　…負薪読書図初出
明治 27 年（1894）	小田原に報徳二宮神社創建　…没後 40 年記念 内村鑑三、『Japan＆Japanese（代表的日本人）』著述
明治 29 年（1896）	孫：尊親、北海道十勝地方開拓事業着手
明治 37 年（1904）	国定教科書に二宮金次郎掲載
明治 43 年（1910）	岡崎雪聲、二宮金次郎像出品、明治天皇に献上
明治 44 年（1911）	文部省唱歌「二宮金次郎」 遠江国報徳社、「大日本報徳社」に改称・全国組織化
昭和 3 年（1928）	慶寺丹長、「二宮尊徳先生幼児の鋼像」鋳造　…御大典記念
昭和 4 年（1929）	愛知県岡崎市の石工長坂順治、二宮金次郎石像製作
戦中	二宮尊徳の伝単（アメリカ軍の宣伝用ビラ）まかれる
昭和 21 年（1946）	1 円札肖像に二宮尊徳採用される
昭和 51 年（1976）	三波春夫、「ああ二宮金次郎」作詞作曲　…没後 120 年記念
平成 8 年（1996）	映画『学校の怪談 2』で「動く二宮金次郎像」
平成 31 年（2019）	映画『二宮金次郎』上映